

文学帝国メキシコへの招待

現代小説の名作を味わう

フアン・ルルフォ、カルロス・フエンテス、フェルナンド・デル・パソ、エレナ・ポニアトウスカなど、数々の名作家を生み出してきたメキシコ。ラテンアメリカ文学とその世界的ブームの枠組みだけに収まらないメキシコ文学の多様な魅力を紹介します。

本オンライン講演会では、メキシコ文学の研究者、翻訳家たちの手引きのもと1920年代から今日までのメキシコ小説の代表作を時代順に追っていくことで、文学帝国メキシコの「文学近現代史」を概観していきます。

講演者:

寺尾隆吉

早稲田大学社会科学総合学院教授。専攻はラテンアメリカ現代小説。メキシコのグアダハラハラ大学やコレヒオ・デ・メヒコなどで文学研究に従事。著書に『100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック』(勉誠出版、2020年)、『ラテンアメリカ文学入門』(中公新書、2016年)、翻訳書にフェルナンド・デル・パソ『帝国の動向』(水声社、2021年)マルティン・ルイス・グスマン『ボスの影』(幻戯書房、2020年)など多数。

富田広樹

北九州市立大学文学部准教授。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。専門は18世紀スペイン文学。著書に『エフィメラル スペイン新古典悲劇の研究』(論創社、2020年)、訳書にホセ・デ・カダルソ『モロッコ人の手紙/鬱夜』(現代企画室、2017年)、ミゲル・デ・ウナムーノ『アベル・サンチェス』(幻戯書房、2019年)、エレナ・ポニアトウスカ『レオノーラ』(水声社、2020年)がある。

仁平ふくみ

京都産業大学外国語学部准教授。博士(文学)。東京大学人文社会系研究科修了。専門はメキシコを中心とした20世紀・21世紀スペイン語圏文学。最近の論文に“Lo fantástico en ‘Música concreta’, de Amparo Dávila” (*Entre lo insólito y lo extraño: nuevas perspectivas analíticas de la literatura fantástica hispanoamericana*, UNAM, 2019年)「メキシコ北部に生まれる幻想—エドゥアルド・アントニオ・パラの三短篇—」(『HISPANICA』63号、2019)など。

山辺 弦

東京経済大学全学共通教育センター准教授。東京大学大学院総合文化研究科修了。博士(学術)、専門はラテンアメリカ文学。訳書にレイナルド・アレナス『襲撃』(水声社、2016年)、ギジェルモ・カブレラ・インファンテ『気まぐれニフ』(水声社、2019年)、共訳書にデイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か?』(国書刊行会、2011年)、エミリー・アプター『翻訳地帯』(慶應義塾大学出版会、2018年)など。

2021年

3月5日 (金)

18時30分—20時
(使用言語: 日本語)

参加無料/要予約
(申し込み先着順)



本イベントはZoom

ミーティングを使用します。
*Zoom使用環境を事前に各自
でご準備頂く必要があります
のでご了承ください。

申込はこちらから



<https://forms.gle/9ZXeMurA3AjDHq9h9>